



(一社) 南知床標津町観光協会

北海道標津町の概要・位置

世界自然遺産知床の南に位置する標津町（しべつ）は、水産業と酪農業を基幹とする生産の町です。

古くから鮭を中心とする漁業により開けたまちである一方、明治時代後半から大正時代にかけて、入植者により開拓されました。

「シベツ」の語源は、アイヌ語で「鮭のいるところ、大川または本流」の意があります。



■人口 4,649人（令和8年7月1日現在）

■世帯数 2,386世帯

■平成19年（2007年）

「日本で最も美しい村」連合に加盟

■令和2年（2020年）

『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』が日本遺産に認定（※1市3町で連盟申請）

■中標津空港から車で30分程度

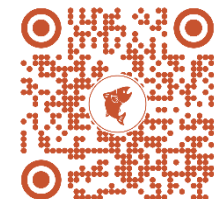
■体験から学ぶ**体験型観光を推進**

■「鮭の聖地」源流のまち **関係人口を創出**

■標津町観光ポータルサイト

「けさのさけ」

総合的な観光の情報発信



教育旅行の受入目的

地域と共に学び、持続可能な社会の創り手へ

- ・主体的に学び、多様な他者と対話をしながら当事者意識を持ち、問題を発見・解決できる持続可能な社会の創り手を育てることを目指しています。
- ・「知る（課題発見）→体験する（対話・協働）→考える（解決策の提案）」という学習サイクルを通じ生徒たちは社会への理解を深め、創造的な思考力を養うことができると考えています。
- ・体験プログラムでは、食文化に触れ、郷土料理の味わいを楽しんだり、豊かな自然や歴史を学ぶことで、生徒たちの知識と感性をより豊かに育むことができます。

『北方領土平和学習ノート』の 作成について

～学校での事前学習と現地講話のセットによる
「自分ごと化」へのアプローチ～

作成の背景と教育現場のニーズ

- **現状:** 語り部活動を担う元島民の皆様の高齢化が進む中、これまでの貴重な体験や正しい歴史的経緯を、いかに次世代へ確実に継承していくかが重要となっている。
- **教育現場のニーズ:** 隣接地域以外の学校にとっても、限られた時間の中で領土問題の背景を事前に理解し、現地での学習効果をさらに高めたいという要望。また、社会科以外の教員でもスムーズに事前学習を運営できるサポート教材へのニーズ。



これらの2つの課題を解決する
「橋渡し」となる教育旅行用の教材が必要

知ろう、考えよう、語り継ごう

北方領土平和学習ノート



北方領土と千島桜（チシマザクラ）

けさのさけ
北海道標津町
鮭の聖地～万年の遺産

学校名				氏名			
	年	組	番				

(学習期間 年 月～)

学習の趣旨と目標

ようこそ、北方領土平和学習ノートへ！

この学習ノートは、北方領土隣接エリアへ来られる皆さんが、北方領土について正しい知識を身につけ、そして、標津町の文化にも触れていただけるように作成しました。

北方領土は我が国固有の領土ですが、自由に訪れることができません。地理・歴史、返還運動について学び、北方領土問題をみんなで知って考え、学びを多くの方に伝えましょう。

(公社) 千島歯舞諸島居住者連盟
標津支部 メッセージ動画



このノートの使い方

ノートにある二次元バーコードを読み取ると、参考になる画像や動画などを見ることができます。それぞれのテーマについて、より学びを深めるために活用して下さい。また、ノートにある気づきメモに自分なりの気づきや発見を自由に書き込むことで、あなたの学習が記録できます。一つのテーマが終わるごとに、学びが深まることでしょう。考えをどんどん記入し、あなただけのノートを完成させましょう。

もくじ

- ① 知っていますか？北方領土・・・P1
- ② 北方領土問題の解決に向けて・・・P3
- ③ 北方領土学習講話 前編・・・P5
- ④ 北方領土学習講話 後編・・・P7
- ⑤ 元島民の思いと平和・・・P9
- ⑥ 鮭の聖地源流のまち標津・・・P11
- ⑦ 学習のまとめ・・・P13
- 思い出のページ・・・P15



ラッコ

表紙 北方領土と千島桜（チシマザクラ）：かつて北方領土に住んでいた人々に、「ふるさとの花」として親しまれている千島桜は、北方領土を未来につなぐふるさとの花として北海道遺産にも認定されています。

©けさのさけ

教育現場の声を反映し、現地講話の効果を高める 『北方領土平和学習ノート』4つの特長

1. **「自分ごと化」の設計:** 生徒自身の視点に置き換えて書き込める「気づきメモ」や振り返りページの配置
2. **講話を効果的にするための知識整理:** 現地での講話を深く理解し、学習効果をさらに高めるために必要な知識（歴史的経緯、地政学的な視点、地域の自然や文化）を、教育旅行向けに体系化。
3. **デジタルとの融合:** 誌面の2次元バーコードから関連する動画や画像へアクセス可能。
4. **高い汎用性:** ポイント整理や穴埋め問題を配置し、事前学習を展開できる構成。

学校での活用事例と生徒の変容

- **ノートを活用した事前学習事例:** 本ノートを活用し、歴史・地政学の習得から、3つの観点（政治・経済・国民感情）による4コマの事前探究学習を学校側で組み立てて実施。
- **現地講話での成果（生徒の変容）:** 事前学習を経て臨んだことで、元島民の方の講話がより深く浸透。



生徒から「歴史的な困難を乗り越え、未来を見据えて対話や平和的な交流事業を大切にされている姿勢に感銘を受けた」「表面的な知識としてではなく、多面的な視点から自分たちの課題として置き換えて考えることが重要だ」という気付きが自発的に生まれた。

実践から見えた課題と今後の展開

- **実践から見えた明確な課題:** 「学校でのノート学習」と「現地での講話内容」の連動性をいかに高めるかが、プログラムの質を左右する重要な要素として浮き彫りに。
- **課題解決へのアプローチ:** 学校でのノート学習と現地の講話を円滑に組み合わせ、生徒が課題を「自分ごと化」するために、講話枠を「過去（歴史）のお話30分」「これからの未来・最新情勢30分」の未来志向型プログラムへとシフトしていく必要性。

- **個別すり合わせの必要性:** 年間計画や修学旅行のタイミング、事前学習に割けるコマ数は学校によって様々であるため、それぞれの学校のスケジュールに合わせて事前にオンライン等で協議を行い、学校側の学習進捗と現地の講話内容を丁寧にすり合わせるプロセスが必要。
- **プログラム化:** 本成果をベースに、講話と教材をセットにしたプランとして、地域と学校、旅行会社が持続的に連携できる教育旅行の内容としての確立を目指す。

『教育民泊体制構築』 について

～農林漁家だけでなく、地域の一般家庭の皆様にも
ご協力いただける民泊プログラムの体制と仕組みづくりを目指して～

教育旅行民泊の基本理念と目的

- 生徒をお客様としての「サービス」で迎えるのではなく、「家族の一員として受入、ありのままの生活体験」を提供することが最大の目的
- 家庭での「普段の暮らしそのもの」が子どもたちにとって大きな価値
- 共に暮らす体験や共同調理による食の学びを通じ、交流やコミュニケーション力などの社会性を育み、心の平和を育てる
- 農林漁業・農山漁村文化等の体験

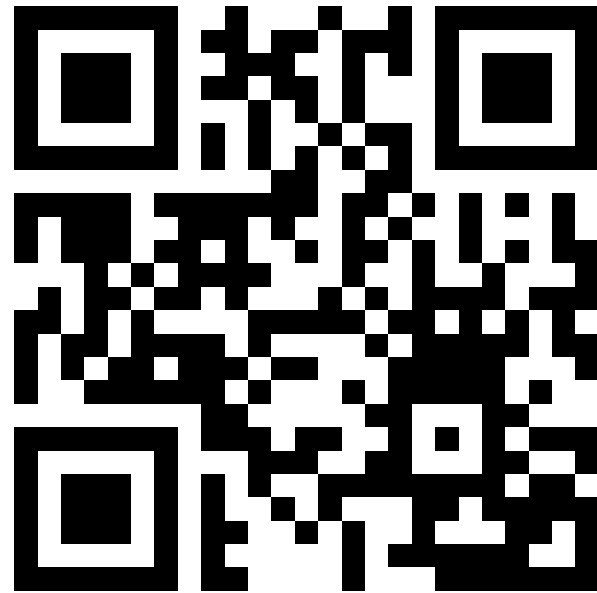
活動を通じた子どもたちの変化

- 最初は不安だった生徒も、「皆よろしくね」の一言ですぐに打ち解け、特別なサービスではなく人との時間が価値に変わった
- 一緒に作って笑い合う共同調理の時間が、魚嫌いな子どもの行動を変えるなど、大きな成長のきっかけに
- 教育旅行民泊は「教える」場ではなく、「一緒に過ごすことで、子どもが自分で変わる場」

【体験教育旅行】事例紹介動画

北海道標津町

自然・産業・北方領土を学ぶ教育旅行



<https://youtu.be/mRU8BmTrS4k>

受入プログラムの事例（目的別）

- ①北方領土学習（講話・施設見学）
- ②昼食（中・大規模 場所：標津番屋・あすばる）
- ③体験プログラム（体験選択制） ※荒天時プログラム含む
- ④オーダーメイド体験（例：活カレイ捌き）
- ⑤宿泊拠点型（宿泊のみ1泊～2泊、管内宿泊施設）
- ⑥複合型（体験・宿泊・昼食）
- ⑦農山漁村生活体験・民泊型
- ⑧フィールドワーク・ヒアリング（調査学習）



- 体験・滞在の1泊2日以上希望に対して対応
- 現地コーディネーター配置、旅程管理・教育効果をサポート

今後の展望

■日本遺産「鮭の聖地」の物語

～根室海峡一万年の道程～の発信

- ・地域の理解や関心を高める
- ・生徒の興味・関心の分野の深化

■北方領土の平和学習

- ・元島民の講話と北方領土館見学
+ 学習の補助（学習ノート）活用

■農山漁村生活体験（教育民泊）

- ・各家庭（酪農家・漁家に限らず）で共に暮らし交流を深める
- ・コミュニケーション→人間関係構築能力

■その他、SDGsプログラム造成、フィールドワー

ク・ヒアリングの受入 関係人口形成・社会学習の機会創出

■標津町観光ポータルサイト 教育旅行情報発信強化

「けさのさけ」 URL:

<https://visitshibetsu.com/education/>

[illegible]